

平成 2 8 年

第 5 回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

平成28年第5回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、オバマ米国大統領が広島市平和記念公園で行った演説と、その姿について、所感を申し述べます。

私は、この様子をテレビのライブ中継で見えていました。オバマ大統領は、「原子力は文明をもたらし、そして破壊しました。私たちは広島に立ち、改めて核兵器の根絶を追い求める決意を新たにしています」と述べました。気負いのない、静かな演説でした。参列していた日本原水爆被害者団体協議会の坪井直代表委員は、「不幸なあの出来事は、アメリカの過ちではありません。人類の過ちだったのです」と言いました。この言葉に涙がこみ上げて、テレビ画面がかすみました。私は、テレビを通してですが、歴史に刻まれる出来事に立ち会っていると思いました。

冷静に、そして好意的に、オバマ大統領をお迎えした広島の皆様をはじめ、日本という国、その国民の品位に、初めて感動と大いなる誇りを覚えました。そして、これからは「戦後」の意味合いが違うものになるような気がしました。

仙北市は、非核平和宣言都市です。核兵器を世界から根絶する運動に参加する自治体です。今回のオバマ大統領の姿から、社会をより良き状況に変える手法は、心に抱く理想を諦めず、実現に向かって努力し続けること以外に存在しないことを教わりました。生涯忘れることができない体験になりました。

次に、カラ吹き源泉事故に対する司法の判断についてです。

昨年3月18日に発生した「カラ吹き源泉事故」に関して、大曲労働基準監督署から労働安全衛生法違反の疑いで秋田地方検察庁に書類送検されていましたが、5月31日に不起訴（起訴猶予処分）とされました。

司法判断は起訴猶予処分ですが、絶対に起こしてはいけない事故でした。現在、施行している源泉の切り替え工事は降雪前に竣工し

ます。

安全対策の強化は今後も続けます。

ご遺族の皆様の悲しみは癒えることがないと思います。改めて3人のご冥福をお祈りします。

次に、熊本地震災害義援金についてです。

熊本地震で被災された方々を支援するため、各地域センター等に募金箱を設置し、市民の皆様に義援金の協力をお願いしていましたが、5月末日で受け付けを終了しました。

義援金総額は市職員の募金と合わせ39万7千240円となり、日本赤十字社秋田県支部を通して被災された方々にお届けすることとしています。

市民の皆様の温かいご支援に対し感謝を申し上げるとともに、被災地の一刻も早い復興をご祈念いたします。

次に、司食品工業の企業誘致についてです。

司食品工業の工場誘致について、5月2日開催の第4回臨時会で同社社長から進出を断念する文書を正式に受理した旨の報告をしましたが、その後、5月9日には私と担当職員が市の顧問弁護士を訪ね、今後の市の対応・対策等について法的措置も含めて協議を行ってきました。

現在、提訴の是非を判断するにあたり、必要とされる誘致活動の経緯や市の支出経費等の精査分析を慎重に行っています。最終的な方針決定まで、もう少しお時間をいただきたいと思います。

なお、顧問弁護士からは、仮に提訴した場合にあっても、新規の企業誘致活動を阻害する要因となるものではないとの見解をいただいています。提訴となった場合は、あくまでも契約締結を前提として市が支出した費用に関して、損害賠償請求を行うことで検討します。

何より市が取り組むべき仕事は、工業用地の有効活用であり、雇用創出につながる新たな企業の立地だと認識をしています。議会の

皆様はもとより、秋田県をはじめ関係機関のご支援をいただきながら、企業誘致活動に全力で取り組みます。

次に、一般会計補正予算（第1号）についてです。

補正額は2億6,993万9千円で、これに既定予算を加えると、補正後の額は192億6,993万9千円となります。

主な追加事業は、地域密着型サービス施設等整備事業費補助金、介護施設開設準備経費等支援事業費補助金、ごみ処理場管理運営費、公共用地取得費などです。また、指定管理業務委託の更新に係る債務負担行為補正が12件あります。

なお、平成27年度一般会計決算見込み、及び市税関係については、5月31日の出納閉鎖後の最終確認が必要なことから、本日は報告できる状況にありません。本定例会中にはご報告させていただきますので、ご理解をお願いします。

それでは、各部局等の主要事項並びに諸般の状況について報告します。

## 【総務部】

### ◇国家戦略特別区域会議について

5月10日、仙北市として第4回目となる国家戦略特別区域会議に出席しました。新たな区域計画として、「NPO法人の設立等認証に係る縦覧期間の短縮」の規制緩和による事業計画を提案し、5月19日付けで内閣総理大臣の認定を受けました。また「農家民宿等の団体が行う農林業体験サービスにおける旅行業法の適用除外」及び「労働時間貯蓄制度」について、新たな規制緩和の提案を行いました。

なお、最近の新聞報道で、政府は仙北市の提案を受け、農家民宿等の旅行業法の規制緩和に関する関係法案を秋の臨時国会に提出する予定と報じています。本案件の実現性は高まっている現状である

と受け止めています。

#### ◇地方創生特区・近未来技術実証試験について

5月10日から12日まで、株式会社リコーICT研究所が、市内で特殊カメラを使用した路面性状調査の試験走行を実施しました。これは、ひび割れやわだち掘れなど路面状況を画像で記録し、それらのデータを解析することで道路補修の効率的な手法の確立を目指す新技術です。今後は、国や県など関係機関を含むコンソーシアムを設立したいと考えています。このコンソーシアムが母体となり、仙北市内で実用化に向けた走行試験が進められる予定です。

#### ◇ドローン競技会について

7月29日から31日まで、地方創生加速化交付金を活用したドローン競技会を開催予定です。正式名称は「Drone Impact Challenge ASIA CUP 2016 Semboku Akita」で、特別後援に内閣府地方創生推進事務局、後援に総務省・国土交通省などを予定しています。

29日の午前は、角館交流センターでドローン競技会に関するシンポジウムを開催し、同日午後は「ホテル森の風田沢湖」グラウンドゴルフ場にて、ドローンスクールを実施する計画です。30日と31日は、トラックレースの予選・決勝戦を行います。この取り組みの一部について、FPV Robotics株式会社（東京都）に委託する契約を5月9日に締結しました。来場者延べ人数2,000人のイベントを目指し、PRはもちろん、安全対策を含め万全の態勢で臨みます。

#### ◇温泉医療ツーリズムについて

4月1日に着任した田沢湖病院副院長の柴田医師が、田沢湖観光協会の会員を対象に、5月20日、市が取組むヘルスケアツーリズムの実現に向け参画者募集も兼ねた講演を行いました。今後は市内の宿泊施設や観光施設等と連携し、先進的モデル事業の構築に向けて取り組んでいきます。

また、5月23日と24日は、中国国家観光局駐日本代表処の  
ルオユーチエン  
羅玉泉首席代表や、中国に生産拠点を有する日本の大手電機メー  
カー代表などが、特区視察で仙北市を訪れました。市の観光資源の  
多彩さや優位性をアピールする良い機会にもなり、羅首席代表から  
は、仙北市の観光事業に関して様々なアドバイスをいただくことが  
できました。仙北市が目指すヘルスケアツーリズムが市民にとつて  
も実を伴い、さらに外国からの観光旅行や健康志向とマッチングで  
きるよう、グローバルな視点で民間事業者と連携を強化する必要が  
あることを痛感しています。

この他、複数の企業が仙北市の地方創生特区関連事業に着目し、  
部局を超えての問い合わせや、実証試験の準備などが同時進行して  
います。そこで昨年からの取り組み状況や今後の方向性について、  
市職員が情報を共有し総合力で対応することが重要と考え、5月2  
5日、市の地方創生特区推進本部に設置しているワーキンググルー  
プの全体会議を開催しました。今後も部局を横断し、職員同士が連  
携して特区の成果を発現できるよう、事業の推進にあたります。

#### ◇総合教育会議の開催について

5月31日、今年度初の総合教育会議を開催しました。案件は、  
学校適正配置に関するアンケート調査、カヌー競技のオリンピック  
ホストタウン誘致についてです。

ホストタウン誘致については、リオデジャネイロ五輪に出場が決  
まったカヌー競技の佐々木兄弟の地元でもあり、生保内カヌー練習  
場を核に、オリンピック参加チームの招へいや、国内選手の合宿誘  
致の可能性を探っています。トイレや更衣室・シャワー室の整備な  
ど課題もありますが、現在、県との連携を模索しています。このよ  
うな中で、先頃の東北市長会で内閣官房東京オリンピック競技大会  
・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局から、自治体のホス  
トタウン誘致について説明を受けてきました。ホストタウンとは、  
2020年の東京オリンピックを契機に、五輪参加国・地域と相互  
交流を行う自治体です。カヌー競技に関し、総合教育会議では、仙

北市がホストタウンとなれるよう、作業を進めることにしました。

#### ◇仙北市空き家情報バンクの利用状況について

新年度に入り、新たに1軒の空き家登録がありました。これで現在ホームページに掲載する物件は18戸となりました。職員が同行しての物件内覧は、休日対応を含め3回です。1件でも多くの移住を実現するため、今後も空き家の掘り起こしや各種補助制度のPRに努めます。

#### ◇次世代定住支援事業費補助金について

定住・移住を促進するために、今年度から始動した子育て世帯が対象の住宅補助金は、市内3世帯に補助を決定したほか、他に問合せが2件あります。市内世帯のみならず、市外世帯への周知も行い、定住と移住をバランスよく促進したいと思えます。

また、当補助金は今後も需要の増加が見込まれることから、本定例会の補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしく願います。

#### ◇地域おこし協力隊事業について

昨年、田沢出張所と農山村体験デザイン室に、1人ずつ地域おこし協力隊員を配置しました。それぞれが大変精力的に活動を展開していて、その成果が表れ始めています。そこで今年度は、観光課及び企画政策課に、さらに1人ずつ配置する計画です。この募集活動について、秋田県が市町村合同募集会を開催する予定もあると聞いています。連携しながら人材確保が叶うよう進めます。

#### ◇田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクトのアドバイザー委嘱について

平成28年5月14日付けで、京都大学名誉教授の中坊徹次さんと三浦久さん（田沢湖漁）の両氏を、田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクトアドバイザーに委嘱しました。

年度内に建設される田沢湖クニマス未来館（仮称）の展示構成などを中心に、里帰りプロジェクト全体についてもアドバイスをいただくことになっています。既に第1回目の打合せ会議は5月14日に終了し、次回は6月7日を予定しています。

#### ◇山岳遭難について

5月27日、西木町小山田石川原地内の61歳男性が、前日に玉川字渋黒沢国有林内へタケノコ採りに行ったまま帰らないと、家族から角館消防署田沢湖分署に通報がありました。同日、捜索を行う中、大沢森入口付近の山道で、自力下山する男性を発見し無事に保護しました。

男性は下山途中、道に迷い暗くなったため、山中で一夜を明かしたとのことでした。

#### ◇火災の発生について

5月15日、田沢湖向生保内国有林内で山林火災が発生し、11.9ヘクタールを焼損しました。

同事案は、山菜採りの方が発見し、消防署へ通報したのですが、現地を確認したところ、ほぼ自然鎮火に近い状態で、前日の14日の午後に出火したものと推定されます。

#### ◇災害協定について

5月27日、田沢湖RCフライングクラブ・角館ラジコンクラブと仙北市による「災害時における無人航空機（ドローン）による情報収集等に関する協定書」の締結が行われました。立会人に青柳議長、オブザーバーとして仙北警察署と角館消防署からも参加をいただきました。

この協定は、大規模災害・風水害・遭難・その他の災害時に両クラブへ協力を依頼し、ドローンを活用して空からの情報収集を行い、災害時の記録や捜索活動の対応力強化が目的です。

災害発生時の状況把握、また二次災害防止を図る観点から、今回



の協定締結は効果的な取り組みになると考えています。

#### ◇仙北市消防訓練大会の日程について

7月3日、平成28年度仙北市消防訓練大会を落合運動公園駐車場で開催します。消防操法の習熟度を競い合い、訓練競技を通じてポンプ操法の技術向上と消防精神の涵養を図ります。

なお、当日の上位入賞分団は、7月16日に大仙市雄物川河川緑地運動公園で開催される、秋田県消防協会大仙仙北美郷支部消防訓練大会へ参加することになります。

#### ◇仙北市防災の集いについて

8月6日、平成25年8月に発生した土石流災害を教訓とし、防災意識の普及・啓発を図ることを目的に、仙北市防災の集いを市民会館駐車場で開催します。

当日は、各関係機関の協力により、災害対策関係の車両展示及び防災学習を開催する予定です。

また、昨年の県防災訓練に引き続き、地元の自主防災組織等と連携しながら、秋田駒ヶ岳の火山噴火レベルに対応した避難訓練を実施したいと考えています。

### 【市民福祉部】

#### ◇廃棄物処理の広域化について

平成26年12月から、大仙市・仙北市・美郷町・大仙美郷環境事業組合、並びに大曲仙北広域市町村圏組合の間で検討を進めてきた廃棄物処理の広域化について、これまでも議員の皆様にご報告してありますが、この度、平成31年4月からの広域化に向け基本合意が整ったことから、6月21日に大仙市・仙北市・美郷町の2市1町で、基本合意書を取り交わすこととしています。

#### ◇地域子育て支援拠点事業について

地域子育て支援拠点事業として実施している「さくらッコ」の、はっぴいルームが6月から角館児童館内に移転しました。今までよりも、かなり広いスペースで屋内外の活動ができるようになります。親子の交流の場として、また、子育てに関する相談や情報交換の場として、多数の皆様からご利用をいただきたいと思います。

#### ◇中川地区放課後児童クラブ開設及び中川児童館の閉館について

中川地区の放課後児童クラブを中川小学校内に開設することで、市教育委員会と協議を重ねて準備を進めています。所要の経費を補正予算に計上していますが、開設は9月を予定しています。その後、中川児童館は解体し、敷地は隣接する株式会社角館芝浦電子が活用することで協議をしています。

#### ◇ねんりんピック秋田2017について

来年度、秋田県で全国健康福祉祭（通称：ねんりんピック）が開催されます。

同健康福祉祭は、高齢者を中心とした国民の健康の保持・増進、社会参加、生きがいを図り、ふれあいと活力のある長寿社会の形成に寄与することを目的に開催される全国大会です。

県内13市3町1村で26種目の交流大会等が開催予定です。仙北市ではウォークラリーを計画しています。

開催に向け、5月23日にねんりんピック秋田2017仙北市実行委員会設立総会及び第1回総会を開催しました。また、9月1日には、角館地区を会場にリハーサル大会を実施する予定です。

#### ◇地域包括ケアシステムの構築推進について

6月1日、医師・歯科医師・薬剤師等の医療関係者、介護及び福祉サービス提供者等23人の委員に出席をいただき、第1回仙北市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました。

また、生活支援体制整備事業については、6月1日より包括支援センター内に生活支援コーディネーターを新規に1人配置しまし

た。6月下旬には、仙北市生活支援体制整備事業協議体として活動を開始します。

### 【観光商工部】

#### ◇角館の桜まつり・刺巻水ばしょう祭り・かたくり群生の郷行事の人出状況について

角館の桜まつりは、4月20日から5月5日までの16日間の開催期間に加え、今年はプレオープンとして4月16日からの20日間の日程で開催しました。入込客数については、昨年より7.9パーセント増の128万人でした。この要因は、開催期間の前倒し、角館駅乗降者数の増加、乗用車数の増加、全国ネットのテレビや各マスコミの紹介、外国人観光客の増加などと推測しています。

秋田経済研究所に依頼した経済効果は、期間中74億円の観光消費額が発生し、県経済に119億円の経済波及効果があったとの報告でした。

刺巻水ばしょう祭りは、4月9日から5月5日まで27日間の開催でした。今年は花の見ごろが早く、前半は順調に推移しましたが、後半はなかなか人出が伸びず、昨年より16.2パーセント減の9万6千人となりました。4月23日に、今年初めてJR秋田駅から刺巻駅まで直通臨時列車が運行され、約100人の皆様に水ばしょう・かたくり・桜を満喫いただくことができました。

八津・鎌足のかたくり福寿草は、4月9日から4月30日まで22日間の開催で、期間中の人出は、昨年より26.7パーセント減の1万1千人でした。前半は花の状態が良く順調な入り込みでしたが、水ばしょうと同じく後半は花の勢いが衰えたことが要因と分析しています。連休前半で花のピークが過ぎた場合の対応を、本腰を入れて一刻も早く講じる必要があります。

#### ◇角館のお祭り実行委員会の解散と新組織への移行について

5月9日、第6回角館のお祭り実行委員会を開催しました。実行委員会委員・幹事会委員の12人が出席し、昨年度の決算を了承い

いただきました。この時点で、既に新たな実行母体「角館祭りのやま行事実行委員会」が設立となっていたことから、これまでお祭りを開催してきた同委員会を解散しました。各委員、また先輩の皆様には、本当に長い間お祭りの実施運営にご尽力をいただきました。心よりの御礼とご慰労を申し上げます。

#### ◇秋田駒ヶ岳山開きについて

昨日6月1日は、恒例の秋田駒ヶ岳山開きでした。今年は、十和田八幡平国立公園の八幡平地域が指定60周年を迎えたことから、記念活動として、私が岩手県側（国見登山コース）から、雫石町の深谷町長が秋田県側（8合目）からアタックし、山頂でピッケルの交換を行う予定でした。

しかし天候が不順で、両市町の主催者判断もあり、誠に残念でしたが、記念登山は中止となりました。神事や懇親会は予定通り開催しました。

多くの皆様が秋田駒ヶ岳を訪れ、無事故でシーズンを終えることができるよう、心からご祈念します。

### 【農林部】

#### ◇水稻の春作業の状況について

水田の春作業については、雪解けは早かったものの、その後、不順な天候が続いたことで耕起作業等に遅れが生じ、田植え作業の遅れを心配しました。しかし5月中旬以降晴天が続いたことから、作業が進み、例年より2日程度早い5月22日に田植えの最盛期を迎え、現在は一部を除きほぼ終了しています。

平成28年産米の生産目標数量は、昨年比221トン減の15,408トンの配分です。仙北市地域農業再生協議会及び同協議会の認定方針作成者より、各農業者に生産目標数量を通知しています。これに関連し、経営所得安定対策交付金申請の提出期限が6月30日となっていることから、近日中に各農家へ申請書を配布し、6月中旬には市内の各所で、申請手続きの説明会を開催する予定です。

農家個々の申請漏れや書類不備等の防止を図り、遅滞なく交付金が交付されるよう最大注意を払い進めます。

#### ◇新規就農者等の確保・育成について

仙北市の農業振興の柱となる担い手育成について、本年度は県の未来農業フロンティア育成研修に3人、地域で学ぶ農業技術研修として、大仙市の東部新規就農者研修施設に1人、合わせて4人の若き農業後継者が4月から研修に取り組んでいます。地域に欠くことのできない担い手として成長し、農業生産活動に従事されるよう期待しています。

また、農業委員会では新規就農者等の受け入れ促進や農地の有効利用を図るため、農地の買い入れや借り入れの下限面積を50アールから10アールに変更しました。

#### ◇畜産環境総合整備事業について

畜産環境総合整備事業の導入では、西木町小山田字高野地内に堆肥処理施設を建設することで、既に関係集落から同意をいただいています。この度、建設用地について地権者2人と協議が整い、山林20,930平方メートルを取得することになりました。これで開発行為の申請、敷地造成のための準備が8月頃までに整い、9月には造成工事が発注できる見通しです。

なお、本事業は秋田県農業公社が事業主体となり実施することとなっています。

#### ◇薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業について

大手生薬会社との連携で、平成26年から取り組む薬用作物栽培は、栽培マニュアル作りと徹底した栽培指導で、高齢者でも容易に栽培が可能になりました。昨年実績も収穫量が大幅に増え、条件を満たす成果物は契約単価での補償買い取りとすることで、農家の経営安定に有効策となり得る手応えを感じています。

4月21日には、仙北市薬草生産組合の佐々木英政会長が農林水

産省に申請していた「薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業」の実施計画が承認されました。同事業で収穫管理機等の導入を図ることで、労働力がさらに軽減されることなど、今後の取り組みに一層の弾みがつきました。

また、昨年開設した猪苓<sup>ちよれい</sup>試験栽培は、試験圃の4, 800本の原木ホダ木に成長した菌種が確認されたことから、今年は市内9個人・1農業法人が、新たに猪苓<sup>ちよれい</sup>試験栽培を2, 520本増設しました。出荷には3～5年の歳月を要しますが、育成期間も支援を続け、栽培技術の向上と産地形成を進めたいと考えています。

## 【建設部】

### ◇地域高規格道路整備について

5月30日、国道46号「地域高規格道路」盛岡秋田道路整備促進期成同盟会設立総会と、地域高規格道路大曲・鷹巣道路整備促進期成同盟会総会が開催されました。

国道46号期成同盟会設立総会は、昨年までの大仙市と仙北市の2市による同盟会を解散し、新たに盛岡～秋田間の盛岡市・滝沢市・雫石町・秋田市・大仙市・仙北市の関係沿線全市町が加盟した、新たな同盟会を立ち上げて開催しました。今後は沿線が一丸となって活動を強化し、高速移動時代に対応できるアクセス道路の整備として、刺巻地区の整備改良、また第2仙岩トンネルの整備を含む道路改良について、強力に事業推進することを確認しました。

大曲鷹巣道路期成同盟会総会は、平成27年3月に秋田県の幹線道路検討委員会で最優先整備区間に決定をいただいた、仙北～北秋田両市境の大覚野峠を含む14.3キロメートルの地域高規格道路整備促進、また狭隘箇所<sup>せうがいしよ</sup>の早期解消についてを推進事項とする旨を確認しました。

今後は、両同盟会とも関係する自治体とともに、関係機関への要望活動や市民フォーラムなどを開催し、気運のうねりを作り出したいと思います。議会の皆様の特段のご理解をお願いします。

## 【医療局】

### ◇平成27年度決算見込みについて

田沢湖病院の業務量は、入院延患者数が1万8,554人で、対前年度比1,850人の増、外来延患者数が3万1,343人で対前年度比1,022人の増、病床利用率は、看護師が増員されたことなどを要因に、開設以来最高の84.5パーセントとなりました。収支状況では、患者数の増と法改正に伴う退職給付引当金1,502万4千円が特別利益として計上されたことから、事業収益が8億1,326万円、事業費用が8億8,055万7千円となり、事業収支では6,729万7千円の赤字決算見込みとなっています。

角館総合病院の業務量は、入院延患者数が7万4,931人で、対前年度比1,891人の減、外来延患者数が13万7,105人で対前年度比5,034人の減、病床利用率は、精神病床と合わせ80.9パーセントとなっています。収支状況では、特別利益に1億8,969万5千円が計上されたことから、事業収益が41億7,984万8千円、事業費用が40億2,914万2千円となり、事業収支では1億5,070万6千円の黒字決算で、これは平成17年度以来10年ぶりの黒字計上見込みとなっています。この主な要因は、患者数の減少により収益が減となったものの、職員の減少に伴う給与費の減、また材料費や各種経費の削減など、医業費用が収益の減少を上回る削減を達成できたことによるものと分析をしています。

医療局は、一般会計からの支援で、事業費用と累積欠損金の解消に向け取り組んでいる現状です。平成27年度決算では、915万5千円の純利益を見込んでいます。

### ◇平成28年度の診療体制について

田沢湖病院の診療体制については、県派遣医師1人を含む常勤医師4人のほか、看護師2人と理学療法士1人を採用した診療体制でスタートしました。

また、地方創生特区事業として、今年度着任した常勤医師が、通

常業務を行いながら「温泉を活かしたヘルスケアーツーリズム」の取り組みを進める予定です。

このほか、診療体制については、これまで同様、秋田大学・岩手医科大学・県立脳血管研究センターなどからの支援をいただき、市民へ良質で持続可能な医療の提供を行います。さらに新体制となった医療局と医師を含む医療スタッフの確保に努め、職員の意識改革を強力に推進し、一層の医療提供サービスの充実と経営改善に努めます。

角館総合病院の診療体制については、新たに口腔外科（歯科）1人の常勤医を採用し、常勤医師23人の診療体制でスタートしました。昨年同期より1人増員できましたが、不足している診療科では秋田大学・岩手医科大学などから非常勤医師の派遣をいただきながら、さらなる診療体制の確保と充実を図ります。

同病院は、新病院の開院を控えていることから、さらなる経営改善に努め、接遇向上を図りながら市民へ充実した医療サービスを提供し、中核病院としての役割をしっかりと果たせるよう、また安心して治療が受けられるよう、なお一層の努力を傾注します。

#### ◇角館総合病院改築事業について

角館総合病院改築事業の工事進捗状況は、5月末現在68パーセントと、計画上で8パーセントの遅れが出ています。遅れの主な要因は内装業者等の作業員不足です。このままだと完成が約3カ月程度遅れる見込みで、今後も作業員確保に有効な改善策を見出せない現実があります。この場合、引渡し時期が3カ月程度の遅れ（12月末）となり、入院患者の搬送や引っ越し作業が非常に困難な時節と重なります。そこで開院準備等を考慮し、平成29年2月15日まで工期を延期して引渡しを受け、平成29年春の開院を目指したいと思います。議会の皆様のご理解をどうかお願いします。

また、本定例会には、新病院医療機器整備の精査による重要な資産の取得の追加に伴い「平成28年度病院事業会計補正予算」を上程しています。ご審議をよろしくお願いします。



以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げます。本定例会に提案している案件は報告関係 7 件、条例関係 3 件、予算関係 3 件、人事関係 6 件、諮問関係 3 件の計 22 件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決を賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。